



グローバル・マインドを考える

グローバル課題研究Ⅰ
第3回
2016.05.07

CONTENTS



本時の目標

自分なりに「グローバル・マインド」を定義づけてみよう！

- ・第1回授業と特別講演の振り返り
- ・ワークショップ：「バーンガ」「国あてゲーム」
- ・自分なりに「グローバル・マインド」を定義づける

「グローバル・マインド」を考える



マインドとは・・・考え方、姿勢

どんなマインドが、「グローバル・マインド」といえるのだろうか？

振り返り①クイズ



日本はエネルギー資源を輸入できなくなったら、電力は現在の何%になってしまうか？

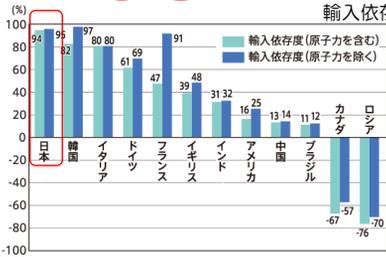
A
石油
石炭
天然ガス
ウラン
B

5%

50%

正解は... A 5%

日本のエネルギー資源
輸入依存度は95%



割り箸は環境・森林保護のために、できるだけ使用は控えた方が良い。

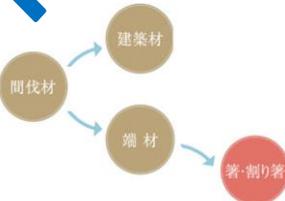


or





正解は...



- 無駄がない...
- 消費が林業を援助...
- 建築用の丸太から出た端材や間伐材
- 割り箸の消費が林業を援助!



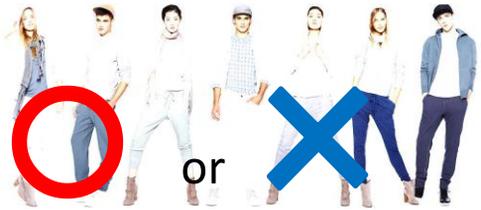
正解は...



現在、国内844店、海外864店と海外の方が20店舗多い。



現在、ユニクロの店舗数は、海外が国内よりも多い



この日のポートフォリオから

1. このクイズの中で興味を持った問題は？
2. その理由は？

ポートフォリオ裏面
<MEMO>

<キーワード>

- | | |
|-----------|-----------|
| ①天ぷらうどん | ⑥日本に住む外国人 |
| ②エネルギー資源 | ⑦外国に住む日本人 |
| ③1ドル以下の生活 | ⑧留学生 |
| ④小学校 | ⑨割りばし |
| ⑤イスラム教 | ⑩ポケモン |
| | ⑪ユニクロ |



振り返り②：SHAREとは？

周りの人と意見を共有するとき

- 相手の意見を否定しない！
- メモを取らず相手の目を見て聞く！
- お互いに拍手で終わる！



ワークショップ：バーンガ

ルール説明

- ページワン
- 練習10分（話してもOK）
- 本番5分（無言）
- 1位と最下位は別のクラスへ無言で移動



ワークショップ：バーンガ



2回戦！

- 制限時間：5分
(今回も無言で！！ジェスチャーはOK)
- 終了後は元のクラスへ無言で移動

ワークショップ：バーンガ



グループ・シェアタイム

- 他のクラスへ移動した人が感じたことと
- 受け入れた人が感じたこと
- 問題をどうやって解決しようとしたか。
- 普段の生活で同じような気持ちになったことは？

ワークショップ：国あてクイズ



- 1：グループごとに1枚ずつカードを引く
- 2：カードのヒントからリサーチして、どこの国のことを想定する
- 3：国を決定して発表→答え合わせ

ワークショップ：国あてクイズ



ワークショップ：国あてクイズ



A国

【地理】
東南アジアに位置する。細長い国土でもっとも狭い部分は幅50kmしかない。
台風が多い。雨季がある。

【経済】
コーヒーは世界第二位の生産量。石炭や石油も産出する。
慢性的に電力不足。原発の建設計画がある。
1日2ドル未満で暮らす貧困層は国民の40%（2011年アジア開発銀行発表）

【民族・言語・宗教】
54の民族からなる。公用語以外に知識層にはフランス語を話せる人が多い。大半が仏教信者。

【教育・文化】
識字率は93.4%。米、麺類、粥、フランスパンを常食。
全国で発行されている新聞や雑誌は600種類を超える

ワークショップ：国あてクイズ



A国：ベトナム



日本のことを好きな人が多い国NO1&
日本がもっとも開発援助している国

参考：「電通「ジャパンプランド調査2015」
外務省発表2014年「ODA実績」より

ワークショップ：国あてクイズ



B国

【地理】
アフリカ大陸に南部に位置する。国土面積は日本よりやや大きい程度だが人口は10分の1、台風が多い。雨季がある。

【経済】
主要産業はたばこ、綿花、園芸。鉱業も盛んでブラチナ、クローム、ニッケル、金、ダイヤモンドがとれる。かつては「アフリカの穀物庫」と言われるほど農業が盛んだったがムガベ大統領の独裁のもとハイパーインフレに苦しんだ。現在の通貨は米ドル。

【民族・言語・宗教】
かつては南ローデシアと呼ばれていた。公用語は英語だが反英感情が強く、実際はショア語がおもに使われている。国民の3割がHIVに感染しており2006年の世界保健報告では世界でもっとも平均寿命が短かった（36歳）。

【教育・文化】
識字率は83.6%（2011年）でアフリカでもっとも高い。かつては教育水準もアフリカで最高レベルだった。

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ



B国：ジンバブエ



アフリカでもっとも
日本の中古車が売れている国。

日本企業「ビィ・フォワード」がアフリカで
大人気。中古車を自走で輸送してコスト削減。



SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ



C国

【地理】
南半球の国。面積は日本の20倍。森林率は19%で大半は砂漠と半乾燥帯。国土の40%は人が住んでいない。

【経済】
主要貿易相手国は中国。おもに鉄鉱石や石炭を輸出。世界13番目の経済大国。

【民族・言語・宗教】
植民地になるまで先住民族には250種類の言語があった。キリスト教61%。

【教育・文化】
多文化主義政策で、複数の言語を学ぶ機会が多いほか、テレビやラジオを他言語で放送する。

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ



C国：オーストラリア



オーストラリアについて
知っていることは？

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ



D国

【地理】
ヨーロッパの国。日本よりやや小さい。人口は日本の6.4%。

【経済】
世界有数の先進工業国であるとともに貿易大国。GDPの規模はヨーロッパで1位。

【民族・言語・宗教】
この国の言語は、欧州連合の公用語の1つ。国内には28の少数民族も存在する。キリスト教信者が62.8%。先進国の中でも日本の次に少子高齢化が進んでいる国。

【教育・文化】
初等教育を10歳で終えると、進路は職業教育か高等教育のどちらかに厳密に分かれる。

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ



D国：ドイツ



日本にとって欧州最大の貿易相手国。

しかし東日本大震災以降、
日本に悪い印象を持ち始めている。

(出典：外務省、BBC調査)

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ

E国

【地理】

アラビア半島東部。国土の大部分は砂漠。日本の国土面積は秋田県より少し小さい。

【経済】

主要産業は、液化天然ガス、石油、石油化学製品の輸出。

【民族・言語・宗教】

人口のうちこの国の国籍を持つ人は13%に過ぎず、87%が外国人労働者で、そのうちインド人が最大。公用語はアラビア語だが外国人労働者が多いため英語が最も広く理解される。国籍保持者の95%はイスラム教。

【教育・文化】

潤沢な石油・天然ガス収入により、医療費や教育費用が無償。社会保障制度も完備。サッカーが盛んで2022年にFIFAワールドカップ開催が決定している。オイルマネーで多くの有名選手を獲得している。

 SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ

E国：カタール



カタールの液化天然ガスの最大顧客は日本。
そのためか、カタールには親日家が多い。

 SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ

F国

【地理】

北米大陸に位置する。

【経済】

20世紀初めまで経済の主体は農業だったが、現在は世界有数の先進工業国。近年はIT産業が発展してきている。

【民族・言語・宗教】

白人が76.7%。キリスト教徒が77%でそのうちカトリックが43.2%。54の民族からなる。

【教育・文化】

温室効果ガスの実績は最下位から2番目。二酸化炭素排出量が10年前より25%も増えている。2005年の市民結婚法成立により同性結婚をすることが容易になった。

 SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

ワークショップ：国あてクイズ

F国：カナダ



カナダは世界1位のウラン生産国で、
日本のウラン調達先1位である。

 SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

振り返り(ポートフォリオ記入)

・自分なりにグローバル・マインドを
定義してみよう

→2つのワークショップから
“グローバル・マインド”を
考えてみよう

 SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

© 2016 OKAYAMA GARUGEIKAN HIGH SCHOOL. ALL RIGHTS RESERVED

2年目の変更点

- ①第1回目はガイダンス、第2回目は国際貢献と日本人に関する講演会+世界の現状を数値で捉えるクイズ形式の授業を実施。これを踏まえて、3回目はバーンガという多様性やマイノリティ、マジョリティを体感できるワークショップ形式の授業を実施。
- ②100分授業の展開により、余裕をもってディスカッションやアクティブラーニング型の授業を行えるようにした。
- ③生徒の興味関心をひきつけることを統一した教員目標に設定して、年間の教材開発を行った。
- ④論理的思考力は夏以降に取り組むこととし、グローバルなど、重要語句を自分なりにまずは理解し、説明できるように教材を作成した。
- ⑤多様性を学園内でも実現させるために、対象クラスを全てシャッフルしたSGH専用クラスを編成。

2年目の反省点と変化

- ①ディスカッションできる生徒は多くなったものの、アクティブラーニングというよりは、ワークショップ型に近い授業が多くなった。生徒が主体的に議論するためには、もう少し高度な思考を促す教材作成が必要と認識。
- ②シラバスの展開にまだ、各チームごとの接続性が薄く、生徒が何に向かって学びを進めているのか不明瞭なため、生徒の学ぶモチベーションにまだ伸びしろがあるように感じた。
- ③100分授業は十分に時間を割くことができ、また、教員の教材作成時間に余裕を持たせることができ、良い変化だった。
- ④次年度に向けて、よりアカデミックさを求めていく改訂が必要だと教員で意志統一するのを感じた。
- ⑤SGH専用シャッフルクラスの導入は、学園の一体感を高めるとともに、様々な生徒が相互に関わり合う良い空間作りになった。